

## 心臓CT検査におけるビソノテープの有用性の検討

<sup>1</sup>札幌整形循環器病院平田 優香<sup>1</sup>、森居 路子<sup>1</sup>、尾崎 威文<sup>1</sup>、國生 泰範<sup>1</sup>、檜作 聡<sup>1</sup>

【目的】心臓CT検査は、画像解析能において心拍数が大きく影響するため、当院外来ではテノーミン 50mg を前投薬としていた。この度、 $\beta$ 1 遮断薬貼付剤ビソノテープが採用になったことから、心臓CT検査前投薬としてビソノテープの有効性・安全性について報告する。【方法】平成27年9月から平成28年6月心臓CT時に前投薬としてビソノテープを処方された56例（ビソノテープ4mg:10例、ビソノテープ8mg:46例）について経過記録用紙を用いて検討した。テノーミンは採用前、連続50例と比較した。心臓CT当日、来院時に心拍数・血圧測定を行い、目標心拍数以上の場合はロプレソール 20mg を内服、CT入室後はコアベータ 12.5mg を体重換算量で静注した。【結果】ビソノテープ4mgは、心拍数低下が不十分であった。ビソノテープ8mg群の来院時目標心拍数達成率はテノーミン群より有意に低く、そのためのロプレソール追加内服が多かった。しかし、CT入室時の心拍数は、テノーミン群もビソノテープ群も達成率に有意差はなく、入室後のコアベータ使用率も有意差がみられなかった。いずれの $\beta$ 遮断薬も臨床的に問題になるような副作用はなかった。【結論】ビソノテープは単独使用では目標心拍数達成率は低かったが、ロプレソールを併用することでCT検査時の心拍数を安定化させることができた。さらに貼付剤は、剥せばすばやく血中濃度を下げることができ、検査後の副作用出現を抑える利点がある。心臓CTの前投薬としてビソノテープは有用であると考えられた。